

患者番号		記載日	
患者氏名		診療科	
生年月日		性別 男・女	記載者名

- 検査項目：上部消化管内視鏡検査 経口
 経鼻
 鎮静剤使用

検査目的

上部消化管（食道・胃・十二指腸）にできる病気（炎症・潰瘍・ポリープ・がん・静脈瘤など）を発見し適切な治療方法を考えるために行います。

検査方法

- 胃の中の泡と粘液を除き観察しやすくするために水薬を飲みます。
- 喉に局所麻酔のスプレーをします。
- 内視鏡（太さ径1cm程度）を口から挿入し、上部消化管を観察します。必要時、小さな組織を採取（生検）して、病理組織検査にて良性か悪性かを判断します。特に痛みは伴いません。
- 検査目的によっては鼻からの検査が可能な場合もあります。鼻からの検査をご希望の場合は、予約時にお伝え下さい。
- 希望があれば、より楽に検査が受けられるように鎮静剤の注射をして、少し眠くなった状態で検査を受けていただくことができます。

鎮静剤の使用について

- 上部消化管内視鏡検査により生じる可能性のある苦痛（喉の違和感、嘔吐反射の誘発など）を和らげるために鎮静剤を使用して検査を行うことが可能です。日本消化器内視鏡学会が推奨しているとおりに「完全に眠る」ことではなく「ある程度、口頭でコミュニケーションがとれる」状態を目指して鎮静剤を使用しますが、鎮静剤の効き具合によっては呼吸抑制が起こり、全身状態の悪化や血圧低下を招く危険性があります。万一、そのような状態が生じた場合も最善の処置を行います。鎮静剤投与に伴う危険性をご理解いただいた上で、実施の希望があれば使用するようになります。
- 鎮静剤を使用された方は、検査終了後、薬の効果がきれるまで30分前後、院内で休んでいただきます。

偶発症

精密な検査ほど偶発症の頻度が増加します。この検査では、喉の麻酔薬によるショック、内視鏡操作によって起こる出血や穿孔などが主な偶発症ですが、日本消化器内視鏡学会が調査した全国集計（2000年）によると、その頻度は0.007%、死亡率は0.00045%でした。万一、偶発症が発生した時は外科処置を含めて最善の処置をいたします。

その他

医療安全の確保のために写真や動画を保存することがあります。また、これらは学会や研究会などにおいて使用する場合がありますが、すべての個人情報とは特定できないように処理されます。

＜上部消化管内視鏡検査の同意書＞

私は患者様に上記事項について説明しました。 年 月 日

医療機関名

担当医氏名

私は、上部消化管検査の目的や方法、偶発症について説明を受けて理解した上で、上部内視鏡検査を受けることに同意します。

年 月 日

患者氏名

代理人氏名

(続柄)

※ この同意書は、検査当日、ご持参下さい。